

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

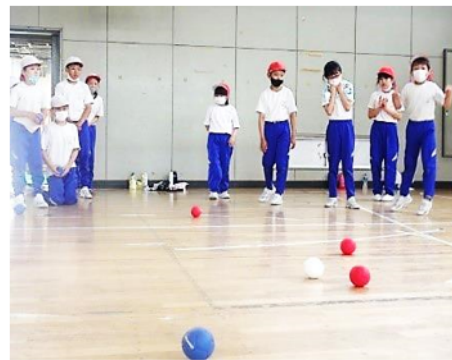
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【長野県】

学校名【長野市立篠ノ井西小学校】

1 実践テーマ	☐ I ・ II ☐ III ・ IV ☒ V（複数選択可）
2 実施対象者	小学生
（学 年 ・ 人 数）	（1年生～6年生：680人 6学年 30人）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（スポーツフェスティバル：運動会） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	・全校みんなでパラスポーツを体験する機会を設け、みんなで楽しさや心地よさを感じる。 ・校内の姉妹学級（1年生）や全校に呼びかけて希望者を募り、ボッチャのルールや魅力を広め、交流を通じてオリンピック・パラリンピックについての理解を深める。
5 取組内容	1 「全校でボッチャを体験しよう」 



本校では昨年度から運動会のあり方を検討した。子どもたちが種目や必要な係活動を考えたりすることで、主体的に行事に関わろうとする態度を育て、様々な種目を体験することで、体を動かすことの楽しさ、心地よさを感じることを目標に「スポーツフェスティバル」と名称を変え実践した。

従来の運動会のような、多くの練習時間を重ねて発表するものから、校庭、体育館、教室の各場所で体験できる様々な運動を子どもと教師で考え合った。種目内容や必要な係は児童会を中心に決定し、その中の一つとして、パラスポーツのボッチャを全校で行なった。

昨年度の6年生が、全校にむけてボッチャの体験会を開いたので、そこで経験をした子どもは思い出しながら、初めて参加する子どもは担当教師の説明をききながら、短い時間ではあったが全校で体験することができた。

本格的な公式ルールではなく、誰もが理解しやすいように、ルールを簡易なものに変更した。ルールを単純化することで、1年生でもわかりやすく楽しめるだけでなく、思いのほか難しい競技の奥深さも感じる事ができた。

2「ボッチャをクラスの総合的な学習の活動に」



本年度、新たに6年生で総合的な学習の時間ボッチャに取り組むことについて話し合いを行った。ちょうど東京オリンピック・パラリンピックが行われることや、昨年度までの6年生がボッチャ



を行っていて、体験したことがある子がいたり、スポーツフェスティバルでみんなが経験したりしていたので、総合的な学習における、活動の一つとして行っていくことになった。

コロナ下で、姉妹学級の1年生との交流も難しい時期だったため、クラスでの試合を中心にボッチャを繰り返して行った。

本校には2セットしかなかったため、昨年度オリパラ推進校だった学校からボッチャセットを借りたり、学校にあるお手玉やプラスチック製のボールを代用し

たりして行った。ボールによる違いも競技に大きく影響することを実感し、購入希望の用具選定にもつながっていった。

また、ボッチャコートを作成する際、コートマットをお借りする機会があり、体育館の床との違いに驚いていた。単純なルールだけど、繊細な競技であるボッチャの魅力を子どもたちは感じていた。

3「ボッチャを極めよう」

2学期になり、学校にボッチャ2セットとターゲットマットが納品された。昨年度のもの合わせ4セットになり、クラスで行うには十分な数となった。

ちょうど夏休みにパラリンピックでボッチャの特集がされたり、ボッチャの競技を見たりする機会があった。緻密な戦略と高度なコントロールでボールを弾くものを見て、単純にジャックボールに近づける試合から、相手のボールをどう弾いたり、味方のボールを増やしたりするかといった、よりボッチャの本質に迫る活動となった。





その一助となったのが、今年一人一台導入されたタブレットだ。自分の投げる様子をタブレット動画で撮影して確認したり、コートの隅において撮影したりと、客観的に見るできるようになりより技術や戦術を深く考えることができるようになっていった。

4「ボッチャを全校のみんなに広めよう」



全校の人にボッチャをより知ってもらうために、教室の廊下や多目的室にボッチャの簡易コートを作成した。

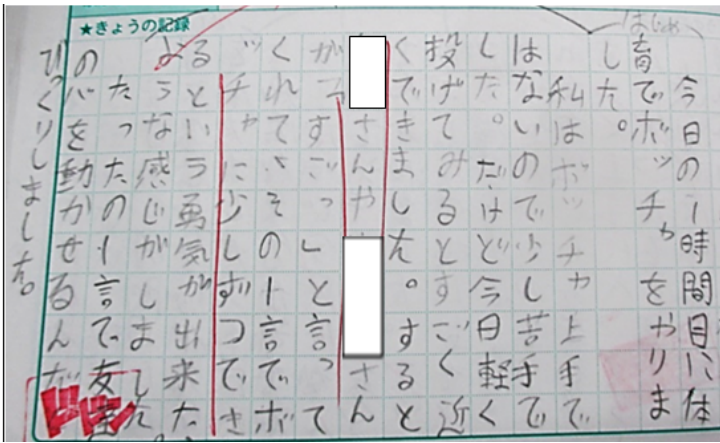
姉妹交流で1年生と一緒にボッチャをやったり、放送で全校に呼びかけ、休み時間に希望者がボッチャを体験できるよう準備を進めた。

また保護者と参観日に、総合的な学習のまとめとしてボッチャやパラスポーツ、パラリンピックについての発表、そしてボッチャ親子対決ということを考えていたが、新型コロナウイルス感染症が拡大し、全てできなくなってしまった。



感染警戒レベルが下がれば、姉妹交流など人数を限定して行い、本校にとってボッチャがより身近なものになっていく活動につなげていきたい。

(←昨年3月に実施した全校ボッチャ体験)

6 主な成果	①一人一人がボッチャを通してボッチャの楽しさを実感できた。日頃の友人関係や性別、運動の得意不得意などを超えたかかわり合いの良さ、楽しさを学ぶことができ、心の垣根をこえて人とかがわっていくことの心地よさを感じ取ることができたと思う。  ②パラスポーツの魅力や競技ルールの工夫を実感し、だれもが楽しめるユニバーサルスポーツの考え方、そこから障がいのある方とどのように関わればよいかについても体験的に学ぶことができた。などの言葉が数多く見られた。 ・オリンピック・パラリンピックの対する興味関心の向上 ・オリンピック・パラリンピックに対する知識量の増加 ・ハンデキャップにとらわれない共生の考えの根付き
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・全校行事のスポーツフェスティバルで体験種目の一つに取り入れたので、全員がボッチャを体験する機会ができた。 ・学級でボッチャのことを紹介したり、ミニコートを作ったりして、だれもがいつでもボッチャを体験できるようにした。 ・低学年・中学年・高学年で校舎が離れているが、全校にボッチャのことを知ってもらうために、校内放送を活用した。
8 主な課題等	コロナ禍により、当初予定していた姉妹交流や全校交流ができなかった。ボッチャに親しむだけでなく、ボッチャを通してパラリンピック・障がい者理解を体験し、そこで感じたことを次に活かす、生きた学びにつなげたい。
9来年度以降の実施予定	来年度もスポーツフェスティバルの種目の一つとして実施したり、体育のニュースポーツ、または総合的な学習の時間の一つとして教材を紹介したり、提供していく予定。